

学校教育目標（めざす児童像・学校像・教師像）

学校教育目標（平成27年4月1日改訂）

みがき かがやく 静小の子ども

よく考える子（知）

思いやりのある子（徳）

たくましい子（体）

H31年度 めざす児童像

- ◎ 進んで学習に取り組む子（知）
- ◎ 話をしっかり聴き、自分の考えを発表できる子（知）
- ◎ 笑顔で元気な挨拶と返事ができる子（徳）
- ◎ 善悪の判断ができ、きまりをしっかりと守れる子（徳）
- ◎ あきらめず最後までがんばる子（徳）
- ◎ 元気に遊び、体をきたえる子（体）
- ◎ 最後までやりぬく子（体）

めざす学校像

- 子どもや先生の笑顔・元気・やる気があふれる学校
- 子どもが学ぶ楽しさを味わい、安心して通える学校
- 教育への情熱を持ち続ける学校
- 協働体制で組織的に動ける学校
- 地域や家庭等の教育力を積極的に取り入れ活用する学校
- 家庭から信頼される学校

めざす教師像

- 一人一人の子どもや保護者の気持ちを大切にする教師
- 常に研鑽に努め授業改善に励む教師
- 共通認識に立ち組織的な実践で学校力向上に努める教師
- 教育公務員としての自覚をもった教師

学校経営の基本方針

【次代を担う子どもたちのために】

- (1) 新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の編成・実施・評価・改善を目指す。
- (2) 基礎基本を確実に身に付け、自ら学ぼうとする子どもの育成を目指す。
- (3) 心豊かで、よりよく生きようとする子どもの育成を目指す。
- (4) 進んで運動に親しみ、健康と安全に気をつけて生活しようとする子どもの育成を目指す。
- (5) 授業力の向上に日々努力しながら、日常の授業の充実を図る。

【組織体としての学校であるために】

- (1) 全職員の経営参画意識に基づく協働的な体制づくりに努める。
- (2) 優れた教師力に基づく組織的な教育活動で、学校力の向上を目指す。
- (3) 困り感のある子どもに対しては、複数体制で適切な教育支援を行う。

【保護者・地域との信頼関係を高めるために】

- (1) 公教育を担う学校としての役割と責任を果たす。
- (2) 家庭や地域に学校を開き、情報の発信と収集に努める。
- (3) 家庭や地域との連携を図り、それぞれの教育力を生かす。
- (4) 報告・連絡・相談の徹底に努め、7つの危機管理意識を高める。

7 つ の 危 機 管 理	1 教育課程	・授業時数の確保 ・授業進度の調整 ・指導内容の厳選と重点化
	2 生徒指導	・深い児童理解 ・愛情をもった対応 ・保護者への理解と説明
	3 健康安全	・応急措置と病院への搬送 ・保護者への連絡 ・人命最優先
	4 服務規律	・職務上の義務 ・身分上の義務 ・信頼される教職員
	5 施設管理	・確実な施設と鍵の管理 ・整理整頓 ・安全、安心な校舎維持
	6 個人情報	・管理の徹底 ・使用後の消去
	7 保護者・地域・関係機関	・説明責任 ・人材、素材の積極的な活用と関係づくり

年度の重点目標

1 重点目標

様々な課題の解決のためには一人一人の教職員の力がまとまり合い響き合うことが大切であり、静内小学校の伝統を継承しつつ、確かな子どもの変容を目指した教育活動の改善と充実を積極的に図っていかねばならない。そして、一人一人の教職員が専門性の向上を目指して研鑽に励むとともに、共通理解を図りながら組織体としての教育機能を高めることが、我々の職責の遂行につながり、子どもたちの未来に向けての成長につながっていくことと確信する。そこで、年度の重点目標を以下のように設定する。

学校全体の組織的な教育活動で「子ども力」を高めよう ～深い共通認識お確実な共通実践～

「子ども力」とは、学校（教師）の働きかけにより子ども自身の意識化が促され、その子ども自身が身に付けることのできる資質や能力である。

様々な課題の解決のためには一人一人の教職員の力がまとまり合い響き合うことが大切である。目標達成に向けた共通認識をもちながら、同一歩調で確実に共通実践を行うことが組織体としての教育機能を高め、子どもたちの未来に向けて成長につながっていくことと確信する。

2 高めたい「子ども力」

	目指す児童像	高めたい資質・能力
知	◎進んで学習に取り組む子 ◎話をしっかり聴き、自分の考えを発表できる子	◎主体的に関わる力 ◎目、耳、心で聴く力 ◎知識を結び付ける力 ◎考えを伝え合う力
徳	◎笑顔で元気な挨拶と返事ができる子 ◎善悪の判断ができ、きまりをしっかり守れる子 ◎あきらめず最後までがんばる子	◎よりよい生活や人間関係を築く力 ◎自律的に行動する力 ◎規則を尊重し守ろうとする力 ◎やりぬく力
体	◎元気に遊び、体をきたえる子 ◎健康や安全に気をつけて生活できる子	◎運動の楽しさや喜びを感じる力 ◎各種の運動に挑戦する力 ◎自分の生活や健康を見つめる力 ◎危険を予測し回避する力

指導の重点と具現化の取組内容

- ◎ 重点Ⅰ 『**確かな学力の育成**』
- ◎ 重点Ⅱ 『**健康な心身の育成**』
- ◎ 重点Ⅲ 『**学校外教育力の活用**』

確かな学力の育成	健康な心身の育成	学校外教育力の活用
<p>徹底した学習規律を土台に、教えるべきことはしっかり教え、主体的・対話的で深い学びの学習を通し確かな学力を育てる。</p>	<p>道徳科を要とした指導と継続した体力づくりを行うとともに健康や安全に関する意識を高め、豊かな心と健やかな体を育てる。</p>	<p>内外に開かれた学校を基本に、家庭・地域・異校種との連携を深め、教育的効果を高める学校外教育力を積極的に活用する。</p>
【取組内容】	【取組内容】	【取組内容】
<ul style="list-style-type: none"> ○「学びの約束」の完全定着 【重点：聞く】 ○研修を核とした授業改善 【教えるべきことはしっかり教える】 【基礎内容理解→理解を広げる】 ○「主体的・対話的で深い学び」の促進 ○個に応じた指導 【習熟度別・IT指導 支援員との連携】 ○ICT 機器の効果的活用 ○「朝活動の時間」の工夫 【学習 読書】 ○「放課後学習」の実施 【各学年ごと】 ○「家庭学習」の定着と内容の充実 【家庭学習の手引き内容の再指導】 ○夏・冬休みサポート学習の実施 【各2日：全学年 学校サポーター事業活用】 ○学びの場としての教室環境づくり 【ユニバーサルデザイン】 【活動室の環境整備】 	<ul style="list-style-type: none"> — 心 — ○道徳科を要とした重点項目の指導 【「規則の尊重」「善悪の判断】 ○よりよい人間関係を築く児童会活動の実施 【挨拶運動】 【いじめについて考える取組】 ○自尊心を高める指導 【認め褒める→自己肯定感の育成】 ○正しい言葉遣いの指導 — 体 — ○体力向上種目の継続 【体育授業にて通年実施】 ○目標をもった体力づくり 【遠足 マラソン記録会】 ○体育用具の有効活用 — 健康・安全 — ○健康保持・生活改善に向けた指導 【保健だより、保健授業の有効活用】 ○安全意識(危険予知・回避能力)の育成 【避難訓練 安全指導】 	<ul style="list-style-type: none"> — 家庭 — ○積極的な教育活動の公開と情報発信 【学校・学級だより】 【ホームページ 参観日の懇談】 ○家庭への協力依頼 【学習・生活習慣】 ○個に応じた保護者との連携 【家庭訪問 電話連絡 連絡帳】 — 地域 — ○外部人材や地域の教育資源の積極的活用 【ふるさと教育の充実・発展】 ○個に応じた専門機関との連携 【「バチ」の園分校」「養育センター」「役場福祉課】 ○地域見守り隊や自治会からの情報収集 — 異校種 — ○静内中学校との連携 【中1ギャップ未然防止事業】

充実した学級経営

- ◎**支持的風土のある学級経営**
・考えを認め合える、話し合える ・子どもの居場所がある
- ◎**教師と子どもが信頼関係で結ばれている学級経営**
・子どもとのかかわり ・児童理解に基づく生徒指導
- ◎**確固たる学習規律のある学級経営**
・子どもたちを学習する集団に ・子どもが守るべき学習規律は、教師が守るべき指導の規律
- ◎**落ち着いた教育環境の整った学級経営**
・安全で安心 ・効果的配置と整理整頓